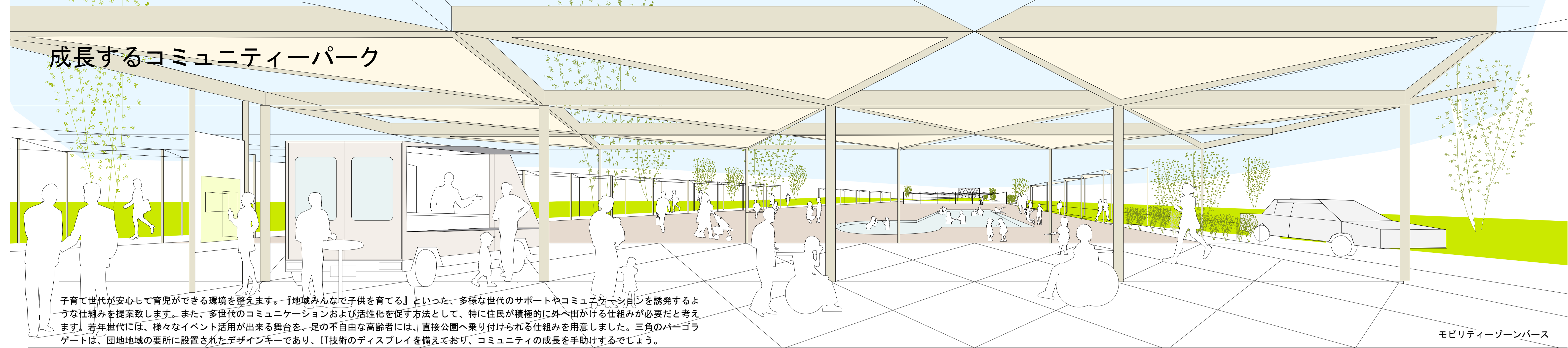


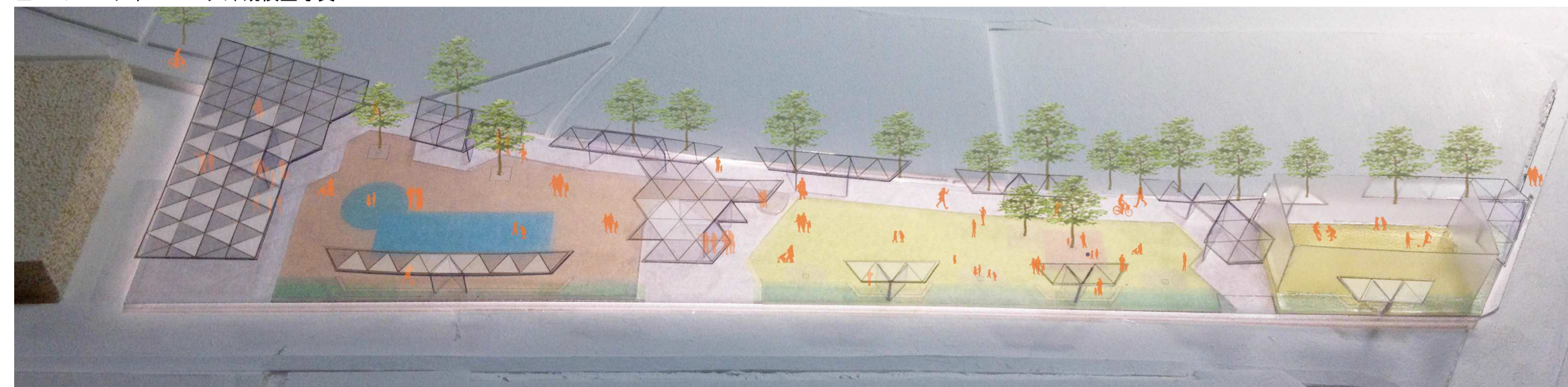
# 成長するコミュニティーパーク



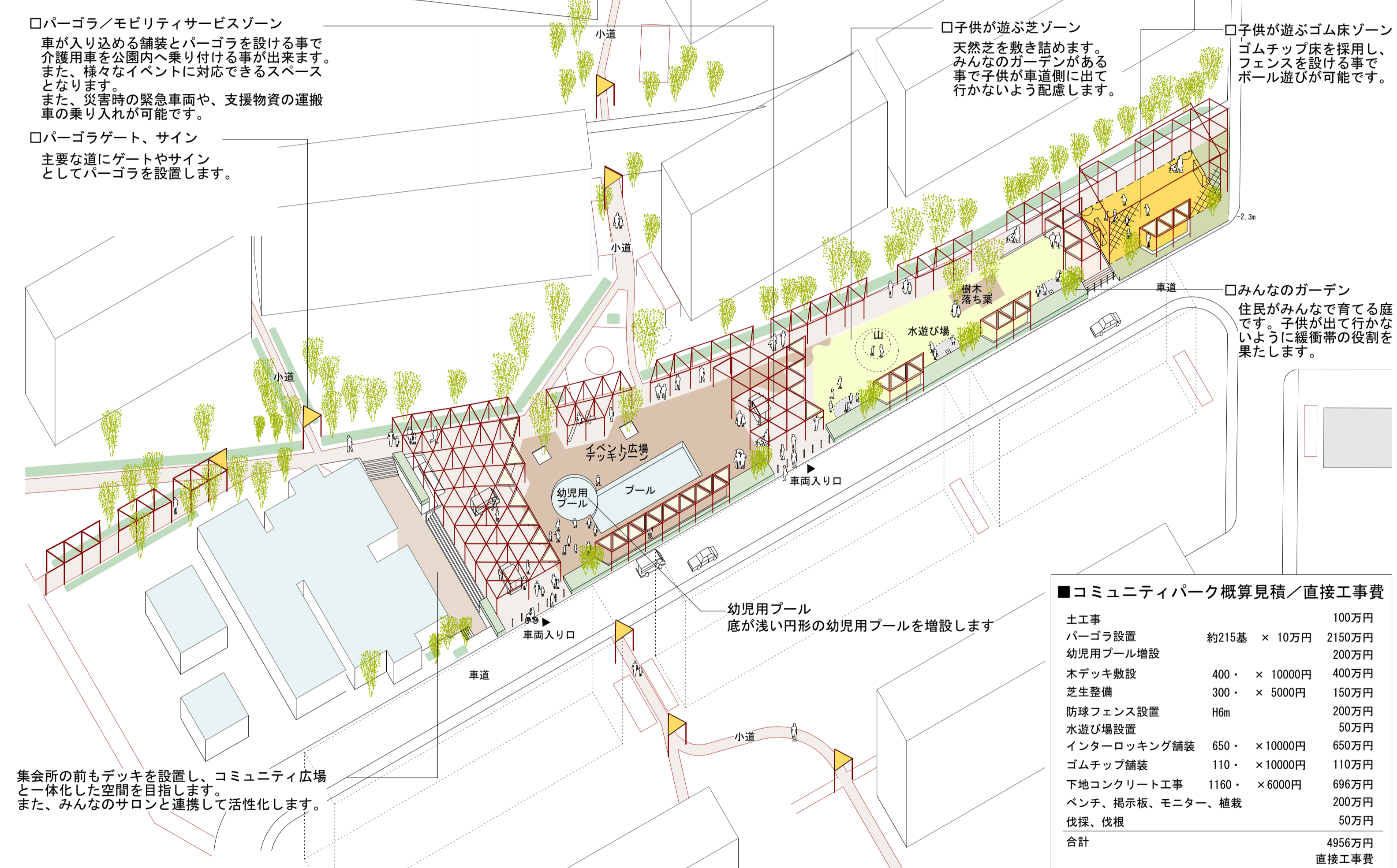
子育て世代が安心して育児ができる環境を整えます。『地域みんなで子供を育てる』といった、多様な世代のサポートやコミュニケーションを誘発するような仕組みを提案致します。また、多世代のコミュニケーションおよび活性化を促す方法として、特に住民が積極的に外へ出かける仕組みが必要だと考えます。若年世代には、様々なイベント活用が出来る舞台を、足の不自由な高齢者には、直接公園へ乗り付けられる仕組みを用意しました。三角のパーゴラゲートは、団地地域の要所に設置されたデザインキーであり、IT技術のディスプレイを備えており、コミュニティの成長を手助けするでしょう。

モビリティゾーンバス

■コミュニティーパーク外観模型写真



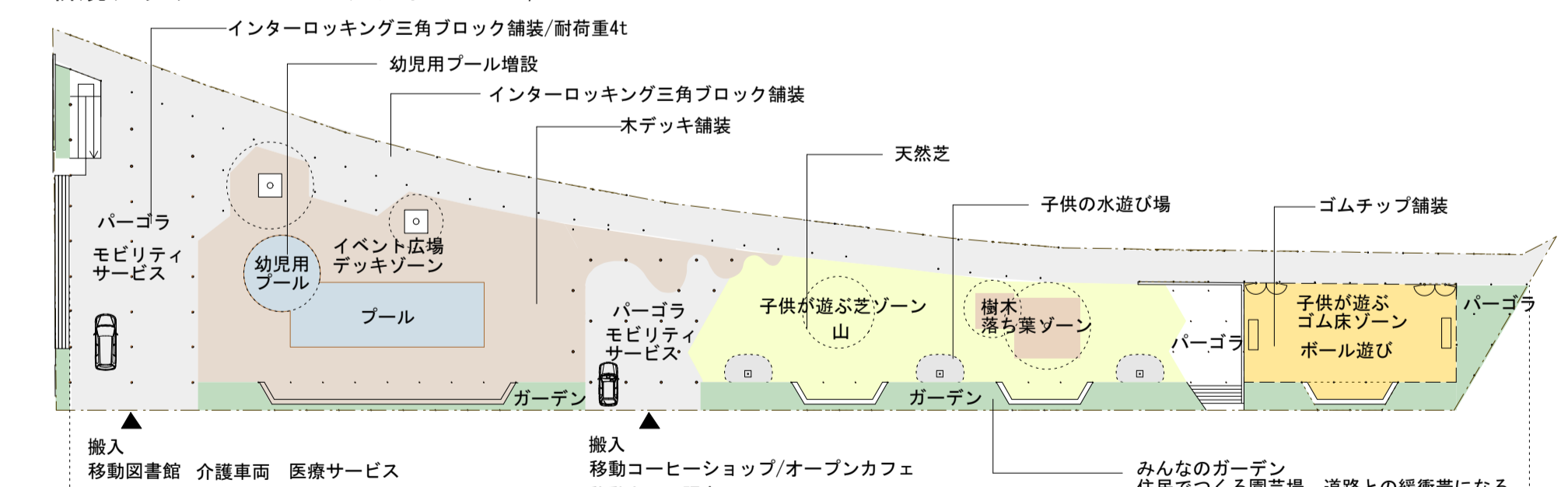
■コミュニティーパーク 鳥瞰図



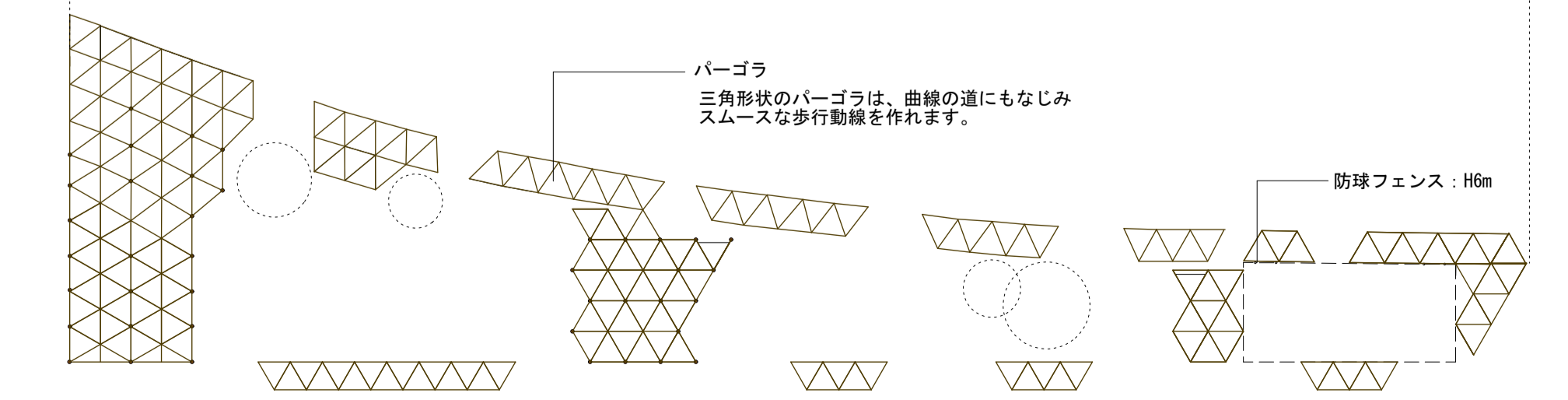
■既存図面 S=1/500



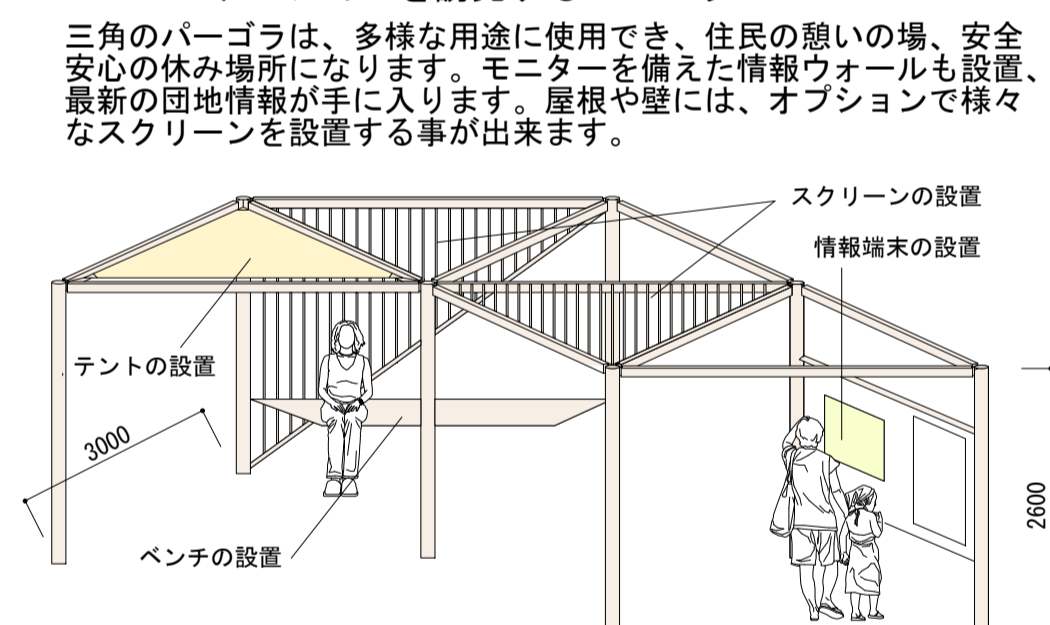
■新規グラウンドレベルデザイン S=1/500



■新設パーゴラ伏せ図 S=1/500



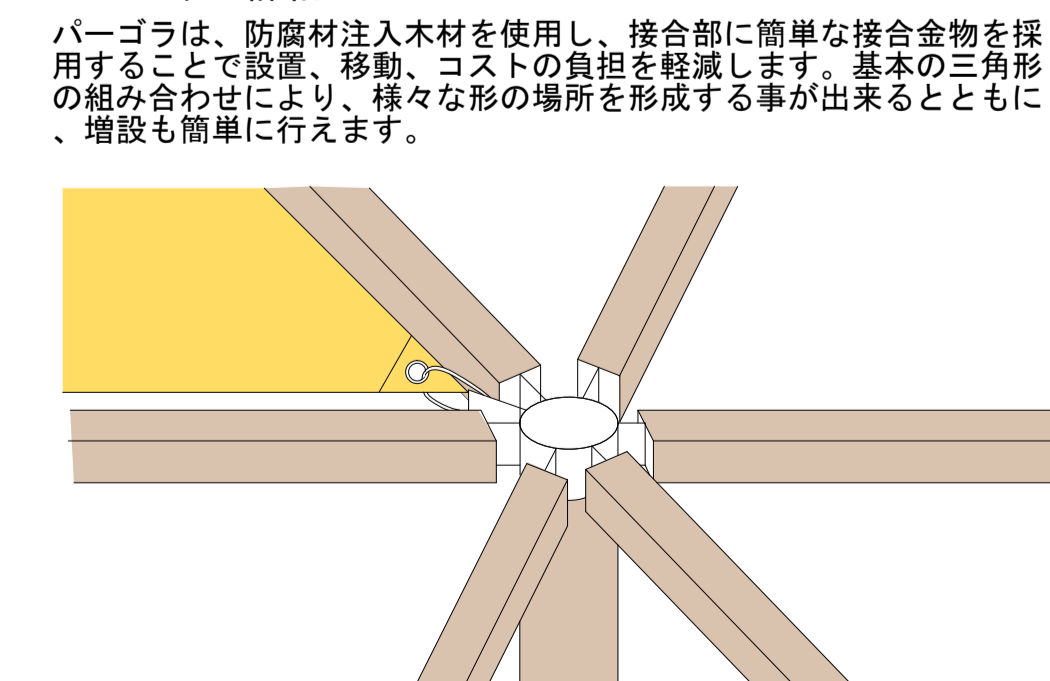
■コミュニケーションを誘発するパーゴラ



■子供の水遊び場

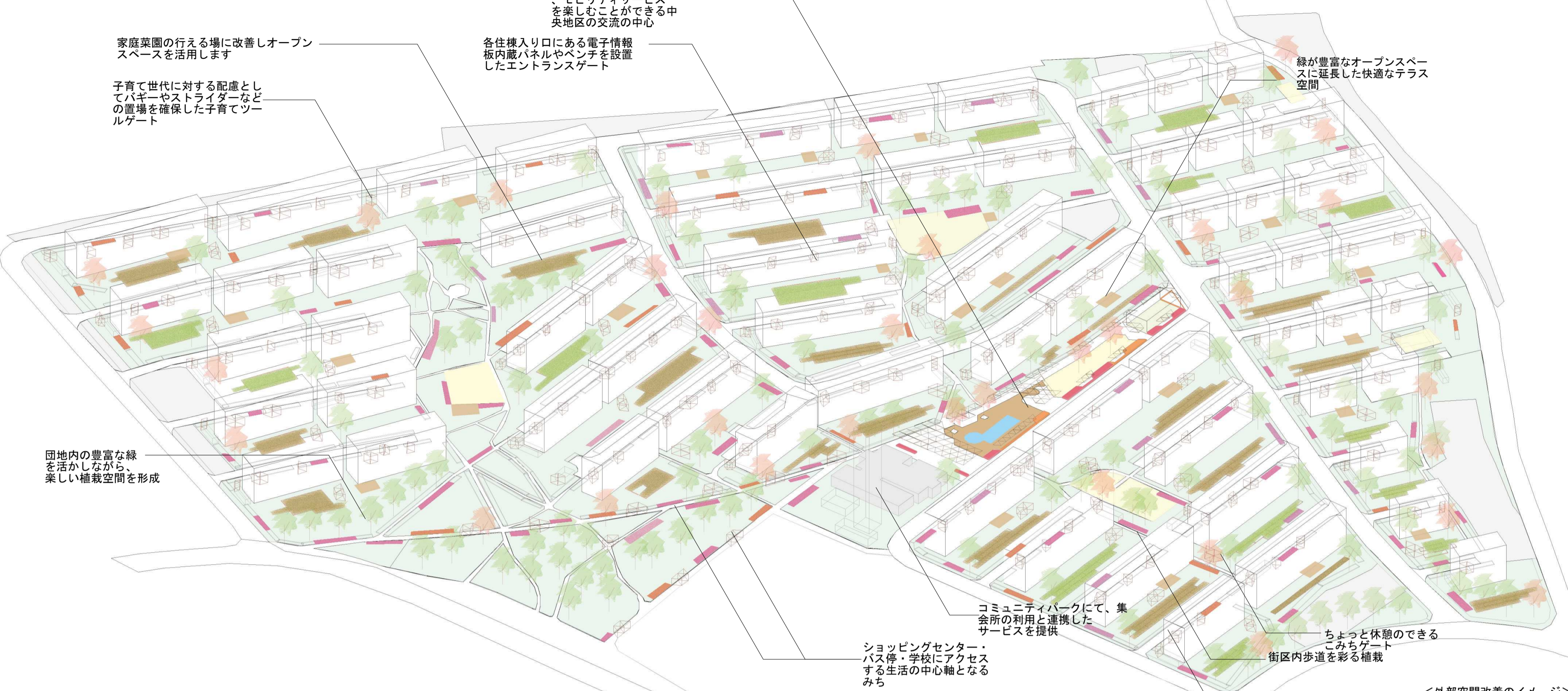


■パーゴラの詳細

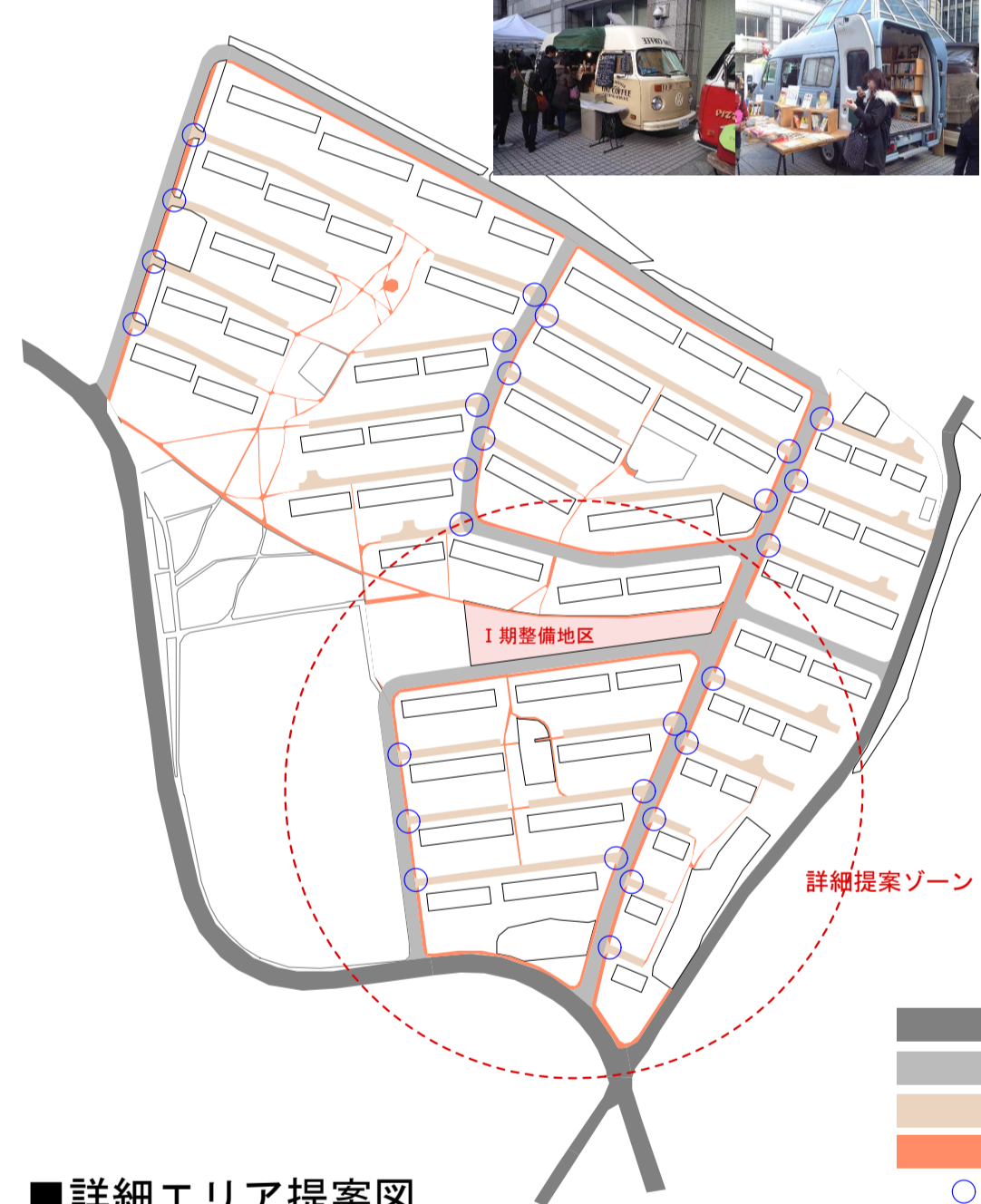


■外部空間改善の考え方

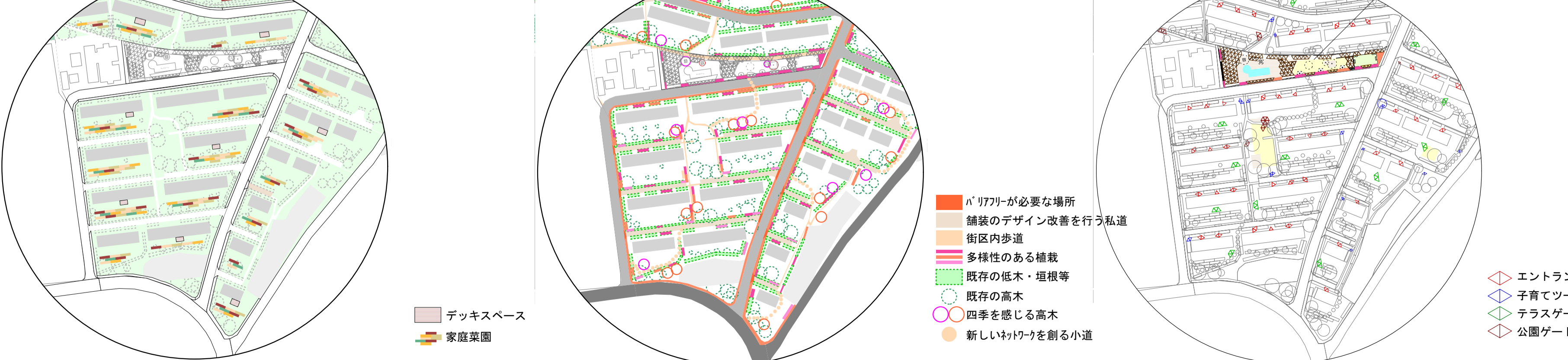
■成長するコミュニティパークと連携した花と緑と「交流」による段階的再生



■居住環境の分析と提案



■詳細エリア提案図



■外部空間改善のイメージ



■コミュニティ活性化に資する空き家活用

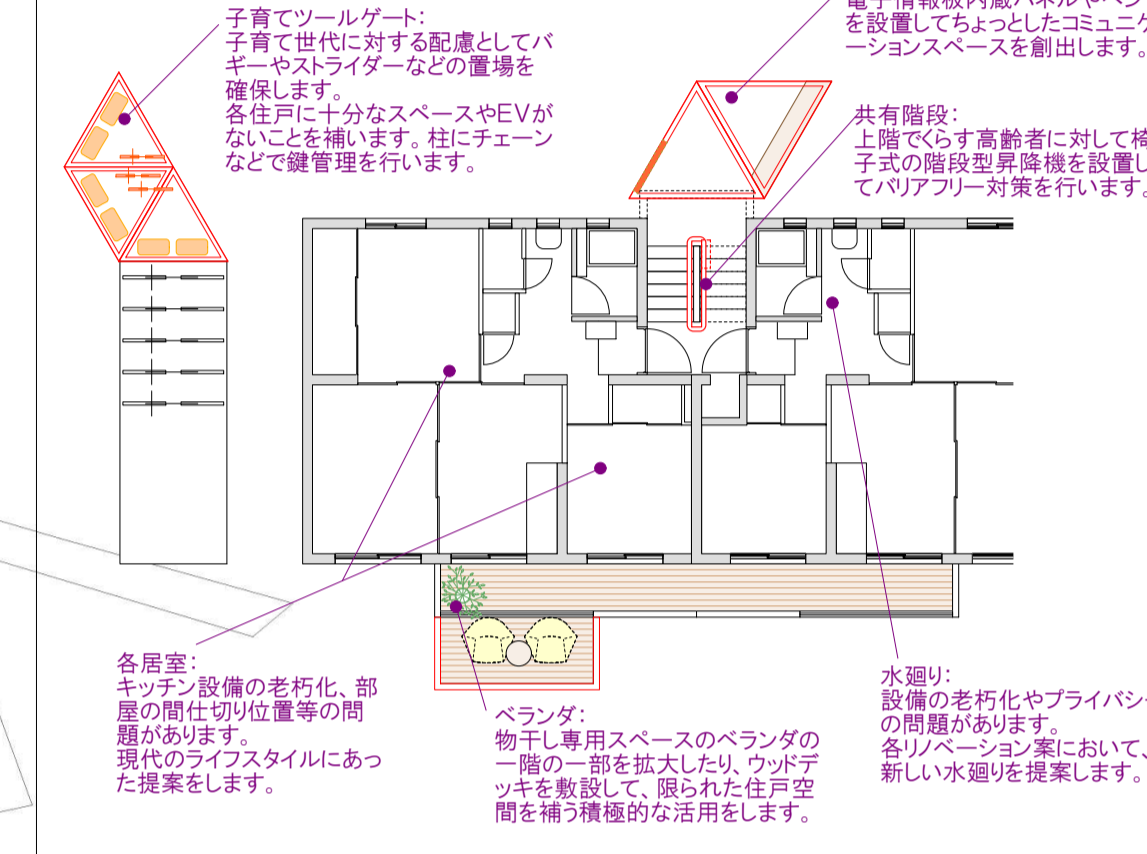
現在の住棟は竣工後50年近く経過し、建物が老朽化しています。新しい世代が移り住むような魅力を出すために、空き家を活用して、「パパやママたちが気軽にあつまれる憩いの場を創出」、「新しいライフスタイルを想定したリノベーション案の提案」、「経験豊富な住人たちとのコミュニケーションの場づくり」をしていくことが重要だと考えます。

■多世代のコミュニケーションのしかけ  
子育て世代が育児をしやすい、家庭内で抱え込まないで地域みんなで子供を育てていくという、多様な世代のサポートやコミュニケーションが重要だと考えます。  
高齢で経験豊富な住人たちと、新しい世代との積極的なコミュニケーションが生まれるように、たとえば、みんなのサロンでお料理教室を開いたり、子育て相談をしたり、提案するコミュニティパークで昔ながらの遊びを教えてあげたりと、様々なイベントを企画し、それらの情報を電子情報パネルを活用して発信していくようなシステムづくりと場所づくりの提案をします。

■建物老朽化・バリアフリーへの対応  
全面的な耐震改修や階段部分を大幅に改修してEVを新たに設置する等の対応策が考えられます。  
ここでは、子育て世代や高齢者に対応して比較的大がかりではない改善策を提案します。

■子育て世代特有のツール置場の提供  
子どもを育てていくうえで、多くの必需品があります。(ベビーカーや小さな三輪車や自転車など) これらを、EVのない階段を持って上がるのは大変です。また、住戸の玄関スペースにも限界があります。  
そこで、地上の自転車置き場付近に、子育て世代用の置場を確保し、利便性を確保します。

【現状住棟の改善ポイント】



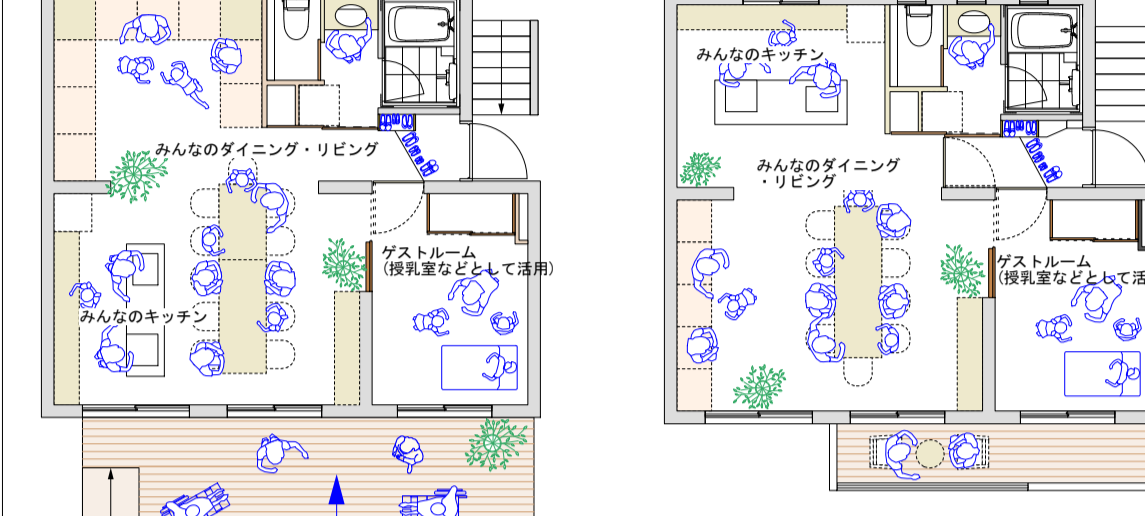
【空家をみんなのサロンに変換】

限られた住戸スペースに於いては、友人と集まってみんなで料理をしたり、食事をしたがることは難しいのが現状です。集会所の活用と連携して、住棟に密着した形態で集まる場所の提案をします。住民団体として、空き家住戸の適所を購入或いは賃借して、みんなのサロン(共有スペース)を設けます。(利用料金を設定して運営を想定) コミュニティパークやエントランスゲートの情報パネルとも連携して利用しやすいシステムを構築していきます。

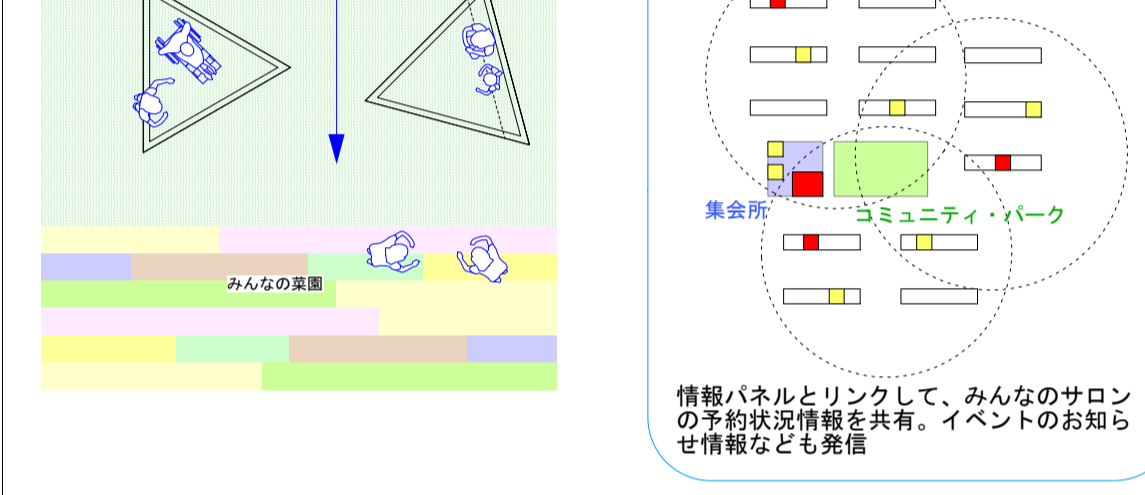
〈みんなのサロンの特徴〉  
-住戸の延長としてホームパーティーのような感覚で利用できます。  
-遠方からくるゲストの宿泊にも対応できます。  
-近くに住む高齢者に昔ながらの料理を教えてもらったりするような身近な交流の場としても活用できます。  
-環境に配慮して断熱や防音設備を施します。

■1階のサロン

庭に直接アクセスできるようなテラスの構成、インテリアと外部空間を一体的に利用できます。みんなの料理をしたり、内外で遊んだり、ヨガレッスンをしたりと様々な楽しみ方。みんなの菜園から野菜の収穫をすてずに調理もできる。



■みんなのサロンの活用イメージ



■3世代が集まって住む

この玄関を持つことを活用して、それぞれの独立性を確保しながら、3世代が寄り添って暮らすスタイルを提案します。

